

宮田ほたるの里 を守る会活動に 参加して

津久井利章

今年のほたる祭りは近年にはないほど数多くのほたるが見られました。

お客さまの数は近年、若手の増があるもののある程度固定化しているように感じられます。特に祭り以外の目でも多くの人たちが見学に来ています。

ここ数年のほたるの水路の泥上げや草の根の除去、柳の木の成長など整備を進めてきた努力の積み重ねがほたるの増加につながってきているのだと思います。

私も仕事の関係から活動に出られないときもありましたが、今後でもできる限り参加をしたいと思っています。



宮田ほたるの活動を見た
り聞いたりした人たちがほたるの地区でもホタルおこしを行い、さらに活動の輪が広がってきています。
こうした一つの運動が地域に広がり地域の活性化や人づくりにつながると思い、これからも活動を続けてゆきたいと思っています。

「ほたる祭り」 について思うこと

石原和子

ここ宮田ほたる祭りでは子供たちがとても活躍しています。例えばホタルの展示ブースではお客さまより質問が投げられれば、瞬時に対応し丁寧に対応している様子が伺えます。
またおもちゃの出店では

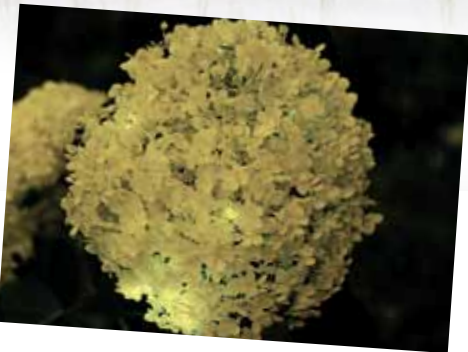


元気な掛け声を上げ明るく積極的に接客し盛んなお祭りを盛り上げてくれています。その姿はどの子も生き生きとしていて底知れないパワーを感じさせられます。昨今では子供たちを取り巻く社会環境の変化に伴い、安心して伸び伸び過ごせる環境が少なくなってしまうしました。

しかし宮田ほたる祭りに失われつつある場が有り、大人と子供で一体となり協力できる所がとても良いと感じています。

それともう一つ広くアピールしたい点があります。それは身体の不自由な人でも車イスで観賞できる様子が整備されている環境の良さです。

例年宮田ほたるの祭りには大勢の人が楽しみに来場し、なかには毎年きてくれる人



編集後記

待ちに待った会報2号が出来上がりました。今年歴史に刻まれる出来事が多かったです。

群馬県でも八ッ場ダム工事中止など日本中の注目の的になりました。生まれ育った家や山や川が長い歳月をかけた工事でなくなり、大勢の人々の悲しみは計り知れないことでしょう。

志をはたして
いつの日にか帰らん
山はあをき故郷
水は清き故郷

「故郷」(歌詞三番より)

木の実落つ

すべての命を

殖やしけり

宮田ほたるの里を守る会でもこのような原風景をいつまでも守っていきましょう。
ほたるっ子



もいます。このことが喜びとなり日ごろの奉仕活動の励みになっています。
ただ一つ残念に思うことは自然まかせのためお祭りの日に必ずしもホタルが多くなることは限らないこと

す。もし時間のとれる人がいれば何度か足を運んでいただけたらと思います。きっと素晴らしい異空間を目の当たりにし、しばし立ち尽くしてしまうのではと思います。

4ページの答え

問題7 3

※解説…ゲンジボタルの幼虫はカワニナしか食べないようです。

問題8 3

※解説…ヘイケボタルの幼虫はカワニナ、モノアラガイ、サカマキガイ、タニシなど何でも食べます。餌がなくなるとカニや虫の死骸(しがい)なども食べるそうですよ。1も少し正解。

問題9 2

※解説…カワニナは体の中で卵をかえし小さな貝にしてから産み出します。人間のよう病院へは行きません。

問題10 2

※解説…一日に10数匹の子貝(稚貝ともいいます)を秋まで毎日のように産み続けます。水路の底が真っ黒になるほど産みますよ。

問題11 1

※解説…カワニナの寿命は3~5年位と言われていますが、なかなか観察するのも大変ですね。

問題12 1

※解説…カワニナの赤ちゃんはとても小さく、真っ黒です。黒いゴマ粒をイメージしてください。